

令和5年度 後期始業式

令和5年度後期始業式にあたり、皆さんに一つお話しします。

前期後半の7月から9月にかけて、「世界水泳選手権 福岡大会」、「サッカー女子 ワールドカップ オーストラリア・ニュージーランド大会」あるいは「アジア大会」など様々な国際スポーツ大会が開かれました。「ラグビーワールドカップ フランス大会」などは現在も開催中です。

これらの中で、何か印象に残っている競技、あるいは選手はいるでしょうか。

私は陸上競技のやり投げの北口榛花選手が印象に残っています。

北口選手は、やり投げの日本記録保持者で、8月にハンガリーで開かれた「世界陸上競技選手権大会」や9月にアメリカで開かれた「ダイヤモンドリーグ」などで優勝しています。

やり投げは6回の試技のうち、最も記録がよかった選手が優勝となります。

8月の大会では、北口選手は最終の6投目を行う前には、暫定4位でしたが、最終6投目で66m73cmを記録し、逆転で優勝しました。

陸上競技のフィールド種目の国際大会で、日本の女子選手がマラソン以外で金メダルを獲得するのはこれが初めてで、北口選手は、来年のパリオリンピックの日本代表第1号にもなりました。

優賞後のコメントでは、「自分が歴史をつくると決めてやってきた」、「みんなの前で金メダルをとれてよかった。トップで居続けることは簡単ではないが、来年のパリオリンピックや2025年には東京で世界選手権もあるので努力し続けたい」などと語っていました。

実は、北口選手は、自らを高めるために、2019年に単身でやり投げ大国チェコへ渡り、コーチに師事して、体づくり、技術に磨きをかけるべく大変な努力を続けてきたそうです。

この「努力」ということについて、みなさんはどのように感じているでしょうか？

これまでやろうとしていたことが思うようにいかなかったり、努力しても成果が残せなかったりと悔しい思いをしたことがある人もいるかもしれません。

もしかしたら、「努力は報われることも報われないこともあるよ」と思っている人もいるかもしれません。

そんな人にぜひ聞いてもらいたい言葉があります。

この選手はいくつもの大記録を樹立しながら、ひどいスランプに陥り、周囲からも心配されていましたが、みごとに復活を果たしました。

そのとき、彼は「努力しても報われないことがあるだろうか。たとえ結果に結びつかなくても、努力したということが必ずや生きてくるのではないだろうか。それでも報われないとしたら、それはまだ、努力とはいえないのではないだろうか。」と述べています。

実はこの言葉は、このときのスランプを乗り越え、後にプロ野球のホームラン世界記録保持者となった王貞治選手の言葉です。「努力する」とか、「努力した」と口では簡単にいうけれど、本当にそうか、本当に自分は限界までがんばったといえるか？彼はそう自問自答しながらひたすら練習を続けたそうです。

自分の夢を実現するためには、その実現に向けて努力し続けることが必要ですが、努力を続けていく中で、つらいことやしんどいことに直面し、くじけてしまいそうになることがあるかもしれません。

しかし、そこであきらめていては自分の夢を実現することはできないということを、北口選手や王選手は教えてくれているように思います。

いろいろなことにチャレンジしていく中で、うまくいかなかったり、失敗したりすることもあるかもしれませんが、しかし、失敗は回り道。行き止まりではありません。広島みらい創生高等学校の先生は、みなさんのチャレンジをしっかりサポートしていきます。後期もがんばっていきましょう。